

停電緊急時機器停止手順

ガスクロマトグラフ PR2100



■通常シャットダウン手順

1. AlphaSoft の Direct Control より、Stop メソッド選択して適用する。
2. FID, FPD の温度が 100°C以下に低下していることを本体のディスプレイより確認
3. 水素発生装置のバルブを閉め、発生装置のマニュアルに従って電源 OFF
4. 空気ポンペのバルブを閉める
5. ソフトウェアを終了し、PC をシャットダウンする。
6. Perichrom の電源を落とし、ヘリウムガスポンペを閉める。
7. 全ての電源ケーブルをコンセントから抜く。

■緊急時停止手順

1. Perichrom 本体キーボードより Stop ボタンを押す。
2. 水素ガス発生装置のバルブを閉じ、シャットダウン
3. 空気ポンペのバルブを閉じる
4. PC をシャットダウンする。
5. Perichrom 本体の電源 OFF
6. 全ての電源ケーブルをコンセントから抜く。
7. ヘリウムガスポンペのバルブを閉じる

■起動手順

1. ヘリウムガスポンペのバルブを開ける。
2. Perichrom の電源を入れ、時刻を設定し、Enter
3. 水素発生装置の電源を入れ、規定圧力に到達してからバルブを開ける。
4. 空気ポンペのバルブを開ける。
5. オートサンプラーの電源を入れる
6. PC の電源を入れ、AlphaSoft を起動
7. Direct コントロールより、分析メソッドを選び適用をクリック
8. 規定温度到達後、FID 及び FPD が自動的に点火したことを確認
9. 2の操作後 20 分以上経過しているのを確認のうえ、Start を押しカラムの空焼きを実施。
10. Blank Run シーケンスを実施してベースラインが安定しているか確認
11. 分析スタート

++分析終了後、翌日も分析を実施する場合、検出器は燃焼させたまま、Helium の流量を 50kpa、Split 流量を 10mL/min に設定することで装置が安定した状態を保ちすぐ使用することが可能です。

+++休止期間が短い場合は、Perichrom 本体の Stop ボタンを押し、FID/FPD の温度が 100°C以下に低下したことを確認のうえ、水素発生装置、空気ポンペのバルブを閉じておくことでヘリウムのみが流れた待機状態になるため、流路を清浄な状態に保つことができ、ベースラインの安定化につながります。

問い合わせ先:

アルファ・モス・ジャパン株式会社

〒108-0073 東京都港区三田 1-3-33 三田ネクサスビル 8 階

Tel: 03-6275-1500 E-Mail: service@alpha-mos.co.jp